

象にささやく男

ローレンス・アンソニー &
グラハム・スペンス 著 中嶋寛一 訳



『象にささやく男』

ローレンス・アンソニー著、中嶋寛 訳、築地書館

象が絶滅まっしぐら。
減少に歯止めがかからない。
1日に100頭弱殺されている勘定。
野生の象、アフリカにはいま40万頭。

開発により生息地を奪われ、象牙を狙った密猟で命を奪われる象。

著者は南アフリカ人。イラク戦争開戦時（2003）、単身バグダッドに乗り込んで、動物園の生き物たちを救おうとしたことで知られます。本書はその彼が南ア・クワズルー・ナタール州に持つ広大な施設保護区に、わけありの象の群れを引き取ってから展開する、波瀾万丈の出来事の記録。欧米でベストセラーとなりました。

戦火の中、身の危険も顧みぬアンソニーの勇敢さ大胆さ。その行動力の一方で、彼には非常に繊細な面もあります。トラウマを抱え、人間に敵意を抱いているゾウたちにささやく彼の姿がそれです。生き物の心理への深い洞察、観察眼。どこまでも控えめに、辛抱強く、思いやりをもって、献身的なセラピストのように接します。そうして彼はゾウの心を読み取り、ゾウへ自分の意思をも伝えることができるようになります。

ゾウは、知性も、記憶も、優しい心も持ち合わせた素晴らしい生き物ですが、その記憶が恨みとなると、時にその激しい気性がむき出しになります。命がいくらあっても足りないような冒険を繰り返したアンソニーですが、残念ながら二〇一二年に心臓発作で亡くなりました。不思議なことにそのとき、それまで長い間姿を見せていなかったゾウたちが長い道のりを行進し、弔問に訪れたといわれています。

THE ELEPHANT WHISPERER

My Life with the Herd in the African Wild



LAWRENCE ANTHONY
WITH GRAHAM SPENCE

「動物の好きな人に勧める51冊」で
『象にささやく男』堂々第8位！

「動物農場」（ジョージ・オーウェル）第2位
「野生の呼び声」（ジャック・ロンドン）35位
「白鯨」（ハーマン・メルヴィル）37位
「かもめのジョナサン」（R・バック）45位
「ジュラシック・パーク」（M・クライトン）51位

ニュースサイト「バズフィード」（月間読者1億人突破）が
2015年7月に行なった調査

<http://noraneko-kambeiblog.blog.so-net.ne.jp/>

<https://www.facebook.com/elephant.whisperer.Japan/>

脇役たちも豪華絢爛たる顔ぶれです。そして、この物語をさらに魅力的なものにし、どの章にも印象深い彩りが添えられています。ライオン、ヒョウ、ハイエナ、スイギュウ、ワニ、ブラックマンバ、ムフェジコブラ、パフ・アダー、オナガザル、パーク・スパイダー、ミツアナグマ、サバンナオオトカゲ、イボイノシシ、カワイノシシ、ソウゲンワシ、ゴマバラワシ、コシジロハゲワシ、クロワシミミズク、ヴォンド、ヨタカ……列挙し始めたら切りがありません。

書評集 『象にささやく男』

「面白くて、一気に読んでしまった」
ナワ・プラサード 2014/02/13

「野生への深い畏敬の念」(北国新聞ほか)
藤田千恵子 04/02

『象にささやく男』をおすすめします」
(バオバブのブログ) 02/28 さくまゆみこ

「意思疎通の原点記す実話」(北海道新聞)
小菅正夫(前旭山動物園長)

感動しました 象の賢さ、優しさ、アフリカの保護区の実態、この本を読むまで知りませんでした。・・・象は・・・絶滅の危機的状況に陥っています。筆者の志と、象という動物のすばらしさが、何とか浸透して貴重な生命の保護に繋がって欲しいものです。

(Amazon 中村雅子 2014/8/10)

行動力が凄い 事件やエピソード満載でテンポも良く アフリカ・・・動物の驚異的な生態 象の知力やコミュニケーション能力 人類はこれら偉大な種に対してこれ以上横暴に振舞う権利がどこにあるのか。この良書に多くの読者を獲得できるよう祈っております。

(読書メーター「ふくさん」3月26日)

先祖のお導き・・・この信仰の力・・・アフリカの豊かな・・・精神性・霊性・・・

(読書メーター「知の6G」4月26日)

象の能力・・・叡智・・・魅力を余すことなく描いた力作 壮絶かつ極めて繊細な異種間コミュニケーション

(読書メーター「カネコ」5月12日)

この本を読んだ後にはどんな冒険譚も空々しく色褪せて感じてしまうだろう。象たちとの驚異的なコミュニケーションは是非本書を実際に読んで確かめてほしい。それは何百キロもの空間を隔てて、存在したのである。・・・

(読書メーター「エンゼルパンダ」8月25日)

良くできたつくりごとの本なら良かったのに！という思いと、ほんとうにこんなことってあり得るんだ！という思いとがせめぎあっていて、心底困っている。・・・

(読書メーター「はる」8月30日)

「何度涙したことか」「これだけ感動した本はしばらくなかった」「感想をブログに書く。また書いているうちに涙がでそうになった。ほんとうにいい本だった」

(デラシネ通信) 大島幹雄(作家) 2014.5.1/2

プロの密猟団の追跡と銃撃戦。大雨と洪水、山火事。ワニや毒蛇の恐怖。ローレンス・アンソニーさんの活躍はノンフィクションとは思えない面白さです。・・・ズールーランドの野生動物保護区とエコツーリズムに行きたくなりました。(ブログ:シーバス電脳日記 09月28日)

「人間以上に人間的と言ってもいい野生のアフリカゾウとの魂の交友録 野生のゾウの英知に驚くと同時に、ゾウたちから言葉を汲み取る著者の思慮深さに感銘を覚える 訳者は...短文をたたみかける文体で、アンソニーとゾウたちとの緊張感ある場面を生き生きと描き出すことに成功している。(図書新聞) 中村尚樹 2014.5.31

「完全なるノンフィクションであり、物語はさらっと進んでいきますが 頭の中に映像が浮かんでくる素晴らしい描写。また翻訳(中嶋寛)も素晴らしい。」「秋の夜長にお薦めの一冊。ぜひ。」「どろんこハリー」 2015.9.25

「今まで読んだ本の中でトップ3に入るんじゃないかと思うほど、「読んでよかった！」

「ゾウさんとの心震える交流については、動物に関わるすべての人に読んで知ってほしいなあ!と思う」

(ZOO AQUA PRESS★) つまき♪ 2015.10.28

<https://www.facebook.com/elephant.whisperer.Japan/>

著者アンソニーには 自然保護と地元社会の経済発展を絡める構想があり、部族社会から支援も、反発も受けます。この本では伝統的部族社会の文化、風習、信仰などの面も描かれており、実に興味深いです。

環境保護、動物保護という地球的課題に孤軍奮闘の観のあるアンソニーですが、愛犬や愛妻や献身的なレンジャーたちに支えられながら、ユーモアを忘れず、いつも前向きに生きた人です。そんなゾウにささやく男アンソニーが、野生のゾウたちとたどった旅路、アフリカの原野で群れと過ごした彼の生活を記したのが本書です。

ゾウという生き物の不思議な魅力がこの作品の至る所に描かれています。アフリカの大地や野生の生き物の神秘にも触れることができます。人はアンソニーを行くべき道を示してくれた偉大な師として読むこともできるでしょう。読む人により様々な角度から入って行ける深い作品だと思います。(訳者あとがきより)